

令和7年度 浦安市平和事業実施報告書



浦安市 市民経済部 地域振興課

- 目 次 -

はじめに	1
1 平和学習青少年派遣事業	2
2 小・中学校平和学習事業	6
3 横断幕及び電光掲示板での啓発	9
4 千羽鶴の献納	10
5 原爆・平和展	11
6 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2025	12
7 黙とうの呼びかけ	16
8 親子平和バスツアー	16
9 平和のつどい2025	17
10 「平和への願い」カレンダーの作成	18
11 「平和への願い 浦安市被爆体験講話」のDVD作成	19
資料編 平和学習青少年派遣事業派遣生感想文	21
非核平和都市宣言	43

はじめに

本市では、昭和60年3月29日に非核平和都市を宣言して以来、非核平和理念の市民への浸透と平和意識を高めることを目的に幅広い平和事業を行っています。

令和7年度は、平和学習青少年派遣事業において、広島市に市内中学生18名を派遣しました。また、7月下旬から8月末までの期間、市役所において被爆写真パネルや浦安の戦争写真、戦争関連の絵本などを展示する「原爆・平和展」の開催や、9月から翌年2月にかけて、浦安被爆者つくしの会(※)の方々の協力による小・中学校平和学習事業を実施しました。

今後も市民一人ひとりに平和の尊さを伝えていくため、工夫を施しながらできる限り様々な非核平和事業を実施してまいりますので、御協力をいただければ幸いです。

終わりに、本市の平和事業にご協力いただきました皆様に、御礼を申し上げます。

※浦安被爆者つくしの会

広島市又は長崎市の原爆被爆体験者(2世会員含む)などが平和諸活動に参加し、会員の健全なる親睦と友愛の絆を築いて発展していくことを目的として、平成5年に発足した団体。

会員の高齢化が進む中で、核の恐ろしさや平和の尊さを、青少年をはじめとする市民に対して継続的に伝え、市民の平和意識の高揚に貢献している。

特に市が推進する非核平和事業について深く認識し、平成13年度から毎年市と共に、自らの被爆体験を語る被爆体験講話を市内の小・中学校で実施している。

1 平和学習青少年派遣事業

■ 実施内容

次世代を担う青少年が、被爆の実相と平和の尊さを知り、戦争や核兵器のない平和な未来を築くことを目的に、市内中学生18名を原爆が投下された日に合わせて広島市へ派遣しました。

広島市では、平和関連施設の見学や平和学習の集い（全国から集まった青少年が、被爆の実相や平和の尊さを学び、交流と相互理解を深める）や平和記念式典等に参加しました。

派遣後は、平和のつどいでの報告会のほか、各中学校において派遣の発表を行いました。（全校で実施）

※派遣生の感想分は21ページ以降に資料編として掲載しています。

■ スケジュール（概要）

区 分	日 程	内 容
第1回 オリエンテーション	令和7年6月22日 午前9時30分～正午	自己紹介、事業概要説明、浦安被爆者つくしの会による平和学習、千羽鶴作成など
第2回 オリエンテーション・ 結団式	令和7年7月25日 午前10時～ 午後4時30分	派遣スケジュール説明、グループワーク、千羽鶴作成、結団式（市長・教育長表敬訪問）、平和のつどい準備など
広島派遣	令和7年8月4日～ 8月7日	平和記念資料館・平和公園等見学、平和記念式典・平和学習の集いの参加など
報告会	令和7年8月31日	平和イベント「平和のつどい2025」で報告

■ 派遣生（浦安市平和使節団） 市内中学生18名

学校名	氏名	学年	学校名	氏名	学年
浦安中学校	藤代 明希	3年	美浜中学校	田村 圭吾	2年
	牛越 睦人	3年		福富 愛	2年
堀江中学校	兒島 颯	3年	日の出中学校	頼末 菜央	2年
	佐藤 優月	3年		武山 遼大	2年
見明川中学校	岩橋 花	3年	明海中学校	田中 希奈	2年
	西脇 有美	3年		津江 純玲	2年
入船中学校	岩寄 すみれ	2年	高洲中学校	菊地 和佳菜	2年
	山本 芭奈	2年		渡邊 真咲	2年
富岡中学校	安藤 優月	2年	引率：地域振興課職員 3名 看護師 1名（広島市、呉市のみ）		
	飛田 彩乃	2年			

■ オリエンテーション（事前学習）

広島へ訪問する前に2回のオリエンテーション（事前学習）を行いました。浦安被爆者つくしの会による平和学習や、平和学習のつどいの準備、市長・教育長との結団式などを実施しました。

◇ 第1回オリエンテーション



自己紹介



浦安被爆者つくしの会
による平和学習



千羽鶴作成

◇ 第2回オリエンテーション



結団式



グループワーク

■ 派遣行程表

日程	時間	内容
8/4 (月) 1日目	8:20	新浦安駅前広場 集合・出発式
	8:40	新浦安駅発 (電車で東京駅へ移動)
	9:20	東京駅着
	10:12	東京駅発 (車内で昼食)
	14:02	広島駅着
	15:00	ホテルチェックイン 看護師合流
	15:30~17:00	平和案内人による平和記念公園内見学
	17:30~18:30	夕食
	19:00~20:00	研修 (平和のつどい準備等)
	22:00	就寝
8/5 (火) 2日目	7:00	起床
	7:20	朝食
	8:40	ホテル出発
	8:50~10:00	袋町小学校見学
	10:30~11:50	平和記念資料館内見学 (音声ガイド付)
	12:00~13:00	昼食
	14:00~17:00	全国平和学習の集い (広島国際会議場) 原爆被害の概要、被爆体験講話聴講、アイスブレイク・ディスカッション、感想発表等
	17:30~18:30	夕食
	19:00~20:00	研修 (平和のつどい準備等)
	21:30	就寝



平和案内人による
平和記念公園内見



袋町小学校



平和記念資料館



平和学習のつどい

日程	時間	内容	
8/6 (水) 3日目	5:30	起床・朝食	
	6:50	ホテル出発	
	7:20	平和記念式典参列 (平和記念公園内)	
	9:00	千羽鶴の献納 (原爆の子の像にて)	
	9:50	原爆ドーム前駅発	原爆の子の像
	11:15~11:45	大和ミュージアムサテライト見学	
	12:00~12:40	昼食	
	12:45~13:30	てつのかじら館見学	
	13:45	呉駅発	
	17:30~18:30	夕食	
	19:00~19:30	灯籠流し体験 (平和記念公園 元安川)	
	20:10	ホテル到着	
	22:00	就寝	
8/7 (木) 4日目	7:00	起床	
	7:30	朝食	
	9:30	ホテル出発	
	10:00~10:50	おりづるタワー見学	おりづるタワー
	11:20	広島駅到着 ※看護師解散	
	12:18	広島駅発 (車内で昼食)	
	16:15	東京駅着 (電車で新浦安駅へ移動)	



平和記念式典



千羽鶴献納



平和記念公園



灯籠流し

2 小・中学校平和学習事業

■実施内容

次第に風化していく原爆・戦争の記憶を今にとどめ、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを若い世代に伝えるため、小・中学生に対し、「被爆体験講話等」及び「非核平和パネルの展示」を実施しました。

「被爆体験講話等」では、小学校は対面式、中学校はDVDにより実施しました。対面式では、浦安被爆者つくしの会による講話や朗読劇を行いました。

DVDの内容は、①浦安市の非核平和事業の紹介 ②浦安被爆者つくしの会による被爆体験講話 ③浦安市平和使節団OB・OGによる平和メッセージです。

■実施校

- ・被爆体験講話等 23校/26校中 学習人数 2,045人
- ・非核平和パネルの展示 26校/26校中

小学校（令和7年度）

No.	学校名	被爆体験講話				非核平和パネルの展示
		方法	実施日	学年	学習人数	貸出期間
1	浦安小学校	対面式	1月15日	6	47	1月9日～1月15日
2	南小学校	対面式	2月9日	6	143	2月9日～2月13日
3	北部小学校	対面式	1月26日	6	126	1月26日～1月29日
4	見明川小学校	対面式	10月30日	6	78	10月28日～10月31日
5	富岡小学校	対面式	12月16日	6	55	12月10日～12月16日
6	美浜南小学校	対面式	12月18日	6	47	12月9日～12月11日
7	東小学校	対面式	1月27日	6	113	1月26日～1月27日
8	舞浜小学校	対面式	11月18日	6	90	11月17日～11月18日
9	美浜北小学校	対面式	2月5日	6	28	2月2日～2月6日
10	日の出小学校	対面式	12月12日	6	62	12月8日～12月12日
11	明海小学校	対面式	9月2日	6	74	9月1日～9月4日
12	高洲小学校	対面式	1月30日	6	79	1月19日～1月23日
13	日の出南小学校	対面式	9月16日	6	89	9月16日～9月18日
14	明海南小学校	対面式	1月22日	6	25	1月21日～1月23日
15	高洲北小学校	対面式	1月29日	6	71	2月2日～2月6日
16	東野小学校	対面式	1月16日	6	94	1月9日～1月16日
17	入船小学校	対面式	12月15日	6	86	12月15日～12月19日
合計					1,307	

中学校（令和7年度）

No.	学校名	被爆体験講話				非核平和パネルの展示
		方法	実施日	学年	学習人数	貸出期間
1	浦安中学校	DVD	9月1日～2日	3	196	9月1日～9月5日
2	堀江中学校	DVD	9月3日	3	191	10月6日～10月10日
3	見明川中学校	DVD	9月22日	2	84	9月22日～9月26日
4	入船中学校	DVD	2月25日	3	68	9月16日～9月19日
5	富岡中学校	DVD	2月16日	1	121	9月29日～10月3日
6	美浜中学校	DVD	9月4日	3	78	9月1日～9月5日
7	日の出中学校	実施なし				9月1日～9月7日
8	明海中学校	実施なし				1月20日～1月30日
9	高洲中学校	実施なし				9月8日～9月12日
合計					738	



浦安被爆者つくしの会 被爆体験講話の様子

3 横断幕及び電光掲示板での啓発

■ 実施内容

「核兵器のない平和な世界を」と記した横断幕を浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋に掲出しました。また、市役所電光掲示板においても啓発しました。

■ 期間

横断幕・電光掲示板：令和7年7月11日～9月11日

■ 場所

- ・横断幕：浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋
- ・電光掲示板：浦安市役所



浦安駅前



新浦安駅前



電光掲示板



舞浜駅前

4 千羽鶴の献納

■ 実施内容

市民より、平和の千羽鶴を募集し、広島市・長崎市へ献納しました。

■ 募集期間

令和7年6月16日～7月15日

■ 献納数

75,000羽



広島に献納した千羽鶴



長崎に献納した千羽鶴

5 原爆・平和展

■ 開催内容

原爆の悲惨さ等を伝えることを目的に、被爆写真の展示や原爆に関する原爆に関する絵本コーナー等を設置しました。

また、一部の期間において、浦安被爆者つくしの会の協力のもと、来場された市民に対し、展示物等の説明をしました。

■ 開催期間・時間

令和7年7月30日～8月31日（土曜日及び祝日を除く）

午前8時30分～午後5時

■ 開催場所

市役所1階市民ホール

■ 展示内容

- ・ 平和と学びポスター（低学年・高学年用）
- ・ 原爆被害の概要、広島市・長崎市の被爆後の惨状写真
- ・ 基町高校の生徒と被爆体験証言との共同制作による「原爆の絵」
- ・ 「核兵器と戦争に関する16の問い展」ポスター
- ・ 第五福竜丸被爆写真パネル
- ・ 東京大空襲パネル
- ・ 浦安と戦争パネル
- ・ 原爆に関する絵本
- ・ DVDコーナー
- ・ アンケート



原爆・平和展の様子

6 子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト 2025

■ 実施内容

市内の小・中学生を対象に、「私にとっての平和」をテーマとした絵画を募集しました。

令和7年度は、83点の作品の応募がありました。

応募いただいた全作品は、市役所市民ホールで展示しました。

また、受賞作品は、平和事業の啓発イベント等で配布する啓発グッズや小・中学校で配布する平和カレンダーに印刷して活用しています。

応募資格：令和7年11月1日時点で6歳以上15歳以下の浦安市民

■ 実施期間

募集期間：令和7年8月1日～9月30日

展示期間：令和8年1月20日～1月23日



展示会の様子



表彰式の様子

受賞作品
【浦安市受賞作品】

※年齢は令和7年11月1日時点



最優秀賞（市長賞） 小学生（8歳）
（※希望により匿名）

【作者のメッセージ】

体のふ自ゆうな人や、お年よりの人、さまざまな人が生活の中で、ふべんだなと思うことが少しでも毎日がすごせたら、よいなと思い絵にしました。

自分の周りに、こまっている人がいたら、あい手の立場になって声をかけたいと考えています。



優秀賞 ^{てらだ さわ} 寺田 紗和 さん（12歳）

【作者のメッセージ】

私は世界の子どもたちが一緒に協力して大きな絵を描いている所を絵の具とペンを使って描きました。

私は絵を描くのが好きなので図工の授業が好きですが世界には十分に学習できていない子どもがたくさんいます。たとえどんな国でそだっていても、みんなで仲よく、世界中の子どもや大人、しょうがいのある人だって支えあえる世界になってほしいなと思いながら描きました。



優秀賞 ^{うだがわ まお} 宇田川 雅央 さん（14歳）

【作者のメッセージ】

この絵の中には4つの平和にかんするものが描かれています。白いはと、佐々木さだこさんの像、コスモス、オリーブのかんむりです。白いはとは平和の象徴、佐々木さだこさんの像は平和を願って彼女の友人たちにたてられた像、コスモスの花言葉はじゅんすいさ、オリーブは平和の象徴とされており、国際連合のはたや、オリンピックにも使用されています。そして、さだこさん、白いはと、セーラー服で日本らしさを表現しました。

世界が平和になり、日本が世界から愛される国になることを願ってこの絵をかきました。



入賞 ^{よしおが} 吉岡 ^{なほ} 奈穂 さん (9歳)

【作者のメッセージ】

りょうさきで、夕やけから夜の、星や、たく山の家の明かりを弟と見て、しあわせでした。けしきの平和がつづくといいなと思い書きました。



入賞 ^{やまだ} 山田 あかり さん (11歳)

【作者のメッセージ】

戦後 80 年をむかえ、悲しみしか生まない戦争をもう二度とくり返さないために、今の私にできることは、相手の意見に耳をかたむけりかいする努力をする事だと思います。

この絵の様に、世界中の人が手を取り、笑って平和な毎日を過ごせるようにしていかないと、と強く思います。

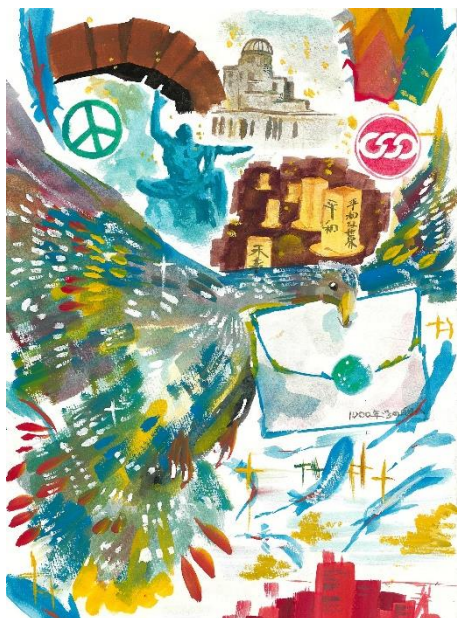


入賞 ^{にしなが} 西中 ^{ここみ} 心美 さん (13歳)

【作者のメッセージ】

白いはとは平和のしやうちやうなのではとが世界を見守っている様子を描きました。

【平和首長会議受賞作品】



平和首長会議 提供

平和首長会議事務総長賞

ふくい さえ
福井 咲恵 さん（13歳）

【作者のメッセージ】

私はこの絵にこれまで日本が平和のために活動してきたことを、未来につなぐという思いを込めて描きました。

未来につなぐのは、平和の活動以外にもたくさんの人々の思いもつなぐためそれを鳥の色で表しました。

たくさんの思いが集まり、それが一つになり、鳥となって末永くはばたいてゆく・・・そんなイメージも込めました。

この鳥が世界に平和をもたらす・・・というの
も込めています。

※平和首長会議とは、広島・長崎両市が提唱した「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」の趣旨に賛同する世界各国の都市で構成された組織です。世界166か国・地域の8,500を超える全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象に、令和7年度は“私にとっての平和”をテーマにした絵画コンテストを実施し、本市上位作品を応募したところ、1作品が受賞しました。

7 黙とうの呼びかけ

原爆死没者のめい福と核兵器の廃絶を願い、広島市・長崎市の原爆投下日における黙とうの実施について、広報うらやす（8月1日号）や、市公式X（エックス）、市役所電光掲示板・庁内放送において、呼びかけを行いました。

8 親子平和バスツアー

■ 実施内容

戦中・戦後の人々の暮らしを実物展示した「昭和館」を見学しました。

移動中のバスの中では、浦安被爆者つくしの会から被爆体験のお話をいただきました。

■ 実施日時

令和7年7月30日 午後0時30分～午後4時30分

■ 見学先

・昭和館(東京都千代田区)

■ 参加者数

14組33名（保護者14名、子ども19名）

9 平和のつどい 2025

■ 開催内容

非核平和事業の一環として、次第に風化していく原爆・戦争の記憶に今にとどめ、戦争を知らない世代へ平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝えることを目的に開催しました。

■ 開催日時・場所

令和7年8月31日 午後1時30分～3時30分
市役所1階市民ホール

■ 来場者数

92人

【プログラム】

第1部 令和7年度平和学習青少年派遣事業報告会

令和7年8月4日～7日に浦安市の青少年を代表として、広島に派遣した浦安市平和使節団により、派遣事業を通して学習したこと等を報告しました。

【出演】浦安市平和使節団 18名



第2部 東京大空襲体験伝承者講話

東京大空襲体験者から受け継いだ戦争の体験と平和への思いを、国立市から委嘱された伝承者に講話していただきました。

【出演】東京大空襲体験伝承者 三尾 健介 氏



第3部 朗読劇

浦安被爆者つくしの会の活動で行っている朗読劇をしていただきました。

【出演】浦安被爆者つくしの会 5名



10 「平和への願い」カレンダーの作成

「子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2025」の受賞作品を掲載した年度カレンダーを作成し、市内小・中学校、高等学校、大学、公民館等へ配布しました。

■発行部数

550部（B2サイズ）

わたし へいわ

私にとっての平和

子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2025 受賞作品
※本誌は、2025年11月1日時点で完りです。

新年度賞（中巻賞） 小学生（8歳）※希望により贈り
優等賞 寺田 彩和さん（12歳）
優等賞 宇田川 雅夫さん（14歳）
人賞 吉岡 奈穂さん（9歳）
人賞 山田 あかりさん（11歳）
人賞 西中 心美さん（13歳）
平和記念日 特別賞 榎井 咲基さん（13歳）

2026 日月火水木金土 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	2026 日月火水木金土 5 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	2026 日月火水木金土 6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	2026 日月火水木金土 7 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
2026 日月火水木金土 8 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	2026 日月火水木金土 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	2026 日月火水木金土 10 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2026 日月火水木金土 11 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
2026 日月火水木金土 12 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	2027 日月火水木金土 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	2027 日月火水木金土 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	2027 日月火水木金土 3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8月6日 | 広島原爆の日 8月9日 | 長崎原爆の日 8月15日 | 終戦記念日 には、1分間の黙祷をお願いします。
9月21日 | 国際平和デー は、国際連合が定めた平和記念日です。

浦安市は、1985年3月に「非核平和都市宣言」を行い様々な平和への取り組みを行っています。

11 「平和への願い 浦安市被爆体験講話」の DVD 作成

■ 実施内容

被爆者の原爆・戦争の記憶を記録することで、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝え、非核平和に対する意識啓発を行うことを目的に、被爆体験講話等の DVD を制作しました。

■ 協力

浦安被爆者つくしの会 会長 宇田川 太江子氏

浦安被爆者つくしの会 副会長 大矢 淳子氏

浦安被爆者つくしの会 隆杉 渉氏

■ 内容

- ・浦安市の平和事業について
- ・被爆体験講話

■ DVDの活用について

DVD は、希望の浦安市立小・中学校へ平和学習実施時に貸出をするなど、市の平和事業で活用します。

資料編

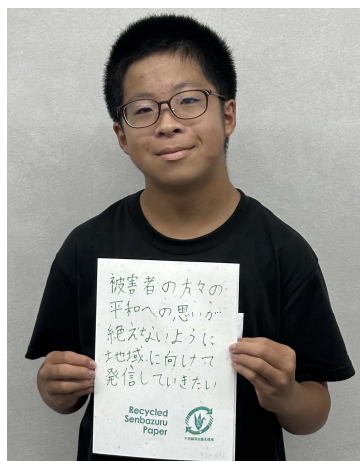
平和学習青少年派遣事業派遣生 感想文

浦安中学校 3年

うしごえ ちかと
牛越 睦人

「現地に行き感じられたこと」

僕は、この平和学習に参加するまで、「戦争は昔のことだから自分には関係がない」と思っていました。しかし実際に広島に行き、原爆ドームや記念資料館を訪れたことで現地の人たちが感じてきた苦しみ、苦労を理解することができ、今では「このことを忘れないだけでなく、周りに伝えていかな」といけません」と感じています。



派遣一日目に行った原爆ドーム、追悼記念館では、ガイドの方の話や資料、展示品から、どれだけ原爆による被害が大きかったか、どれだけの範囲が一瞬で焼き尽くされたかを実感でき、いつもの当たり前の日常がいつ壊されてもおかしくないんだな、と感じました。また、追悼記念館では壁に当時被爆した土が混ざっていたり、展示品に被爆した瓦礫が含まれていたり、そこを訪れた人たちに原爆による被害の悲惨さをしっかりと伝えられるような工夫がされているな、とわかりました。

二日目は、全国から広島に集まった中学生と平和学習をし、自分たちが持っている平和への思いについて話し合うことが出来ました。自分の地元が第二次世界大戦で受けた被害や、現在平和でないことについて話し合い、平和に対する気持ちを深められました。また、平和学習の一環として、実際に被爆者の方から原爆が落とされた瞬間、その後の生活についての話を詳しく聞くことが出来ました。映像で話を聞くよりも現実味を感じ、被爆者の方々の平均年齢が上がっている今こそ自分たちが話を継承するべきだと感じました。

三日目には平和記念式典に参列し、総理大臣の話や代表児童の誓いの言葉などを聞くことができ、8月6日がどれだけ日本にとって大事なのか改めて実感しました。また、世界各国からもたくさんの人たちが来ていて、原爆が唯一落とされた国として世界からも平和の国として注目されているんだなと感じました。

四日目には折り鶴タワーを見学しに行きました。実際に自分も鶴を折り、平和への思いを鶴に込めました。

今回の広島派遣では、実際に平和に関する場所を訪れ、事前学習では知ることのできなかつたことについても知ることができ、自分にとってとても良い経験になりました。自分たちが率先して今回わかつたことを周りに伝え、この平和への思いが絶えないようにしたいです。

「広島で学んだ平和の意味」

私は今回広島に行って改めて命の大切さ、戦争の悲惨さ、平和の大切さなど、身をもって実感しました。

最初に訪れた平和記念公園では、緑に囲まれた中に静かにたっている原爆ドームの姿を見て、あの日の出来事を決して忘れてはいけないという気持ちになりました。

袋町小学校では、被爆当時の校舎の壁に今も残る多くのメッセージを読みました。メッセージの中には、不安などの感情や戦争中必死に生きようとした人たちの思いが詰まっていると感じました。

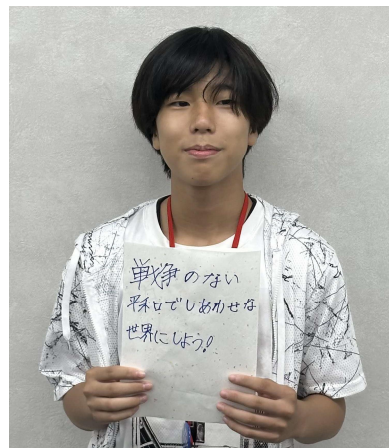
平和記念資料館では、当時の写真や遺品を通して、一発の原爆がどれほど大量の命を奪い人生を変えてしまったのかを知りました。自分たちと同じぐらいの子供たちが犠牲になったことを思うと胸が苦しくなりました。

平和学習の集いや平和記念式典では、実際に戦争や原爆を体験された方々の話を聞くことができました。「あの日のことは今でも忘れられない」と語る姿から、本当の苦しみや悲しみが伝わってきました。そして、自分たちが学んだことをしっかり受けとめ、次の世代へと伝えていくことの大切さを感じました。

千羽鶴の献納では、二度と同じことが起きないようにと願いを込めて鶴を捧げました。夜に灯ろう流しもあり、一つ一つ色々なことが書かれている灯ろうが川を流れている様子は、とてもきれいでした。

てつのくじら館では、自衛隊の歴史や活動を学び、潜水艦の中に入って潜水艦のベッドに寝ることなどができました。潜水艦のベッドは少し狭かったです。

折り鶴タワーに行って見た広島景色はとてもきれいでした。千羽鶴を百円で折り鶴タワーの中に落とせたので落としました。そこから折り鶴タワーの折り鶴がいっぱい入っているところをみると折り鶴がたくさん入っていました。これから私は今回学んだ平和の大切さを忘れず、自分にできることを考えて行動に移していきたいなと思いました。



「広島での貴重な時間を振り返って」

私は、今回の平和学習青少年派遣事業に参加し、改めて戦争の恐ろしさを理解することができ、絶対に核爆弾はこの世界にあってはならないと思いました。

1つの原子爆弾によって1945年までに約14万人もの人々が亡くなられ、大人や学童だけでなく、台湾の留学生などの外国の人々も原子爆弾に巻き込まれ亡くなったことを知り、特に僕は日本人だけでなく外国の人々も亡くなっていたことにとても驚きました。

また8月6日は建物疎開という空襲による火災に備え、あらかじめ建物を壊して防火地帯を作る作業が学童によって行われて、この日は最も大規模な建物疎開の作業中であったため、多くの学童が屋外での作業中に被爆し亡くなっていた事を知り、とても心苦しい気持ちになりました。

また原爆投下からしばらく経っても、放射線による原爆症が人々を苦しめていたことが分かり、健康な人もいつ発症するか分からない恐怖に長年怯え、今もなお原爆症に苦しんでいる人が沢山いる事を知りました。

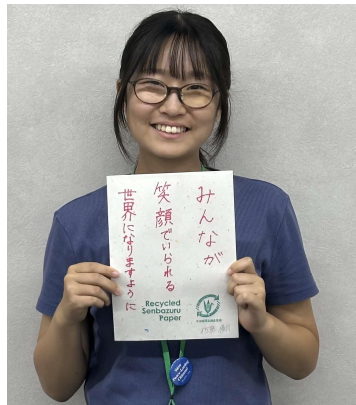
戦後80年経った今、戦争を経験している人々も少なくなってきました。しかし、核兵器はまだ世界に沢山あり、開発も進められているのが現状です。この過ちを二度と繰り返さないためにも、少しでも戦争に感心を持ったり、学んだ事を伝承したりするだけでも、なにか変わるのではないのでしょうか。今も世界中で戦争は起こっています。世界の人々に早く平和が来る事を僕は願っています。戦争のない、平和な世界を実現するためにも、一人一人が戦争について、理解を深める事が大切だと僕は思います。



「平和の尊さ」

私はこの平和学習に参加して主に3つのことを学びました。

1つ目は、日本中みんなが原爆のことについて知るべきということです。原爆が多くの人の命を奪う危ないものということは知っている人がほとんどだと思います。ですが、実際に被爆した方のお話を聞いたり、実物を見たりすると核兵器は想像していたよりももっと一瞬にして地獄になる恐ろしいものでした。一瞬で大きな被害が生まれるけどその被害は一瞬では終わらないのも核兵器の恐ろしいところです。放射線を浴びた人は原爆から時間が経ってから病気になってしまったり、突然亡くなってしまったりすることもあり80年経った今も原爆によって苦しめられている方もたくさんいます。このことを踏まえて二度と同じことを起こさないために日本中の人々が原爆のことについての知識を持ち、もう同じ過ちは繰り返してはいけないという思いを持つべきだと思います。



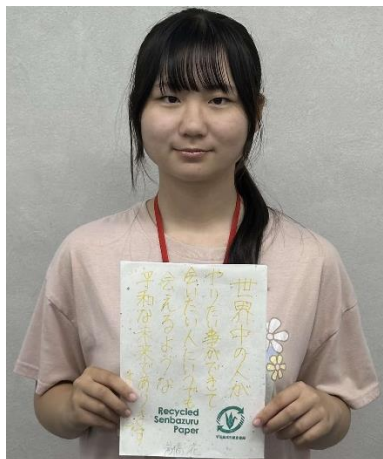
2つ目は、平和とはなにかをみんなが考えるべきということです。平和とはなにか、1度考えるだけでも今ある争いは減ると思います。例えば、いじめや誹謗中傷は自分勝手に相手のことを十分に考えられていないから起きることで、これは、1度でも相手の立場を考えてみたり、優しい気持ちを持ったりすれば起きなくて済むと思います。私はこの平和学習を通して平和とは、世界中の人が心から笑顔であり、自由と、安心が保証されていることだと思いました。

最後に3つ目は、優しさを持ち、考えの違いを認め合えるべきだということです。平和学習で実際に被爆した方のお話を聞いた時に、その方は、人に優しく、世界中に友達を作って考えの違いを認め合うことが、これからの人達にして欲しいことだとおっしゃっていました。世界中に友達がいれば戦争への反対意識がさらに強まると思いますし、優しさを持っていればいじめや誹謗中傷によって傷つく人が減ると思います。

この平和学習で学んだことを忘れず、原爆、戦争の恐ろしさをこれからの世代に伝えて二度と同じことを繰り返さないよう取り組んでいきたいと思いました。

「原爆が残したもの、私が受け取ったもの」

私が広島を訪れて一番衝撃的だったのは広島平和記念資料館です。広島平和記念資料館で原子爆弾によってザラザラになっている瓦や、へこんでいるビンを実際に触ることができました。金属やガラスでも一瞬でこんなに形が変わってしまうとなると、人間への被害はもっと深刻なものだったと考えられます。また、綺麗な新品教科書が展示されていて何故ここにあるのだろうと疑問を持ちました。しかし、この綺麗な教科書は原子爆弾によって息子を亡くした母親が子供の死を受け入れられず新学期のために用意したものであり、部屋まで綺麗に残っていたそうです。原子爆弾は体の傷だけでなく心にも大きな傷を負わせてしまうという展示でした。広島平和記念資料館の最後の展示にとっても大きな写真がありました。それは亡くなってしまった方の頭蓋骨の山でした。その頭蓋骨は一つ一つ形や骨格が違っていて本当に多くの方が原子爆弾によって無差別に命を落としてしまったと痛感する1枚でした。



今、実際に被爆をした方は一番若くても八十歳であるため、被爆した方の話を直接聞く機会は段々と少なくなっています。だからといって原子爆弾が落とされた過去を伝えていかない訳にはいきません。この痛々しい過去を、悲惨な現実を知った私たちが次の世代へ継承していき、二度と同じことは繰り返さないで欲しいという思いを持つことが大切です。

また、被爆した方が「世界中に友達を作りなさい。友達がいる国とは戦争はしたくないでしょ。」とおっしゃっていて、単純だけれど平和の根本とは一人一人の優しく素直な心のことを言うのではないかなと思いました。なので、これからは今起きている紛争などのグローバルな問題からいじめなど私たちにとって身近にあるような問題まで、解決する為には、過去にあった話やこれからの平和について全ての方が考えていく必要があると思いました。

「2度目で見えた広島」

私は8月4日から7日の四日間にかけて浦安市平和使節団の一員として広島を訪問しました。私がこの平和学習に参加したきっかけは、修学旅行で広島を訪れた際に目にした戦争の実態に衝撃を受け、帰宅しても心に残っていたからです。それは単に恐ろしいや悲しいという感情だけではなく、自分の無知さを自覚し、もっと知らなくてはいけないと感じたからです。修学旅行での見学は時間が限られており、ただ「恐ろしい」と受け止めるだけで精一杯でした。しかし二度目となる今回は、前回感じた疑問を持ちながら見学したことで、一つひとつの展示や風景をより深く受け止めることができました。



平和記念公園では、慰霊碑に書いてある「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」という言葉は一度目に見たときよりも強く心に響きました。私たちの世代がこの約束を守り続けなければならないという責任の重さを、改めて感じたからです。また、原爆ドームを見たときにも、今回は「怖い建物」という印象が大きかったのに対し、今回は「残され続けてきた意味」に目を向けることができました。そこに込められた人々の思いや願いに気づけたのは、二度目だからこそだと思います。平和記念資料館では、被爆者の遺品や写真を再び目にしました。同じ展示でも前回とは違う見え方がありました。例えば、焼け焦げた学生服を見たとき、「これはただの服ではなく、同じように学校に通っていた一人の生活の証なんだ」と具体的に想像できました。止まった時計や黒くなった弁当箱も、一瞬で奪われた日常を物語っていて、その重みをより深く感じました。

この学習を通じて、平和は与えられるものではなく、守り続けなければならないものだと強く思いました。世界では今も争いが起こっています。だからこそ、広島で二度にわたって学んだことを自分の中だけに留めず、周りの人に伝えることが私の役割だと思います。

「広島を通して考えたこと」

私は今回の派遣に参加する前に、広島を一度訪れたことがあります。その時も平和記念公園や広島平和記念資料館に行きました。しかし今回は平和案内人の方や被爆者の方の話を直接聞き、前回訪問した時よりもよく「平和」と「戦争」について考えることができました。



私は今まで14年間生きてきて、「今の生活が急に変わったらどうしよう」と考えたことがありませんでした。今の生活が当たり前で、そんなことは絶対に起きないと思って今まで生きていました。しかし広島で被爆者の方の衝撃的な話を聞き、「もしも今、浦安に原爆が投下されたらどうなってしまおうだろう」と初めて考えました。何も知らずに世界で初めて原爆が突如浦安に投下されたらと思うととても怖いです。原爆が投下された直後の地表温度は3000~4000度になり、爆心地から半径500m以内のほとんどが即死したと平和案内人の方が仰っていました。ですが私はその話を聞いても現実とかけ離れすぎていて、想像することができませんでした。同じ地球に住む人間同士でこんなことをしてしまうのはなぜなのかとても恐ろしいです。また、研修で私たちは平和に強い思いを持った人にたくさん会いました。特に平和記念式典でのこども代表の言葉に、とても感銘を受けました。二人とも小学6年生で私よりも年下なのに、多くの人の前でとても自信を持って、堂々と誓いを立てていて驚きました。他にも平和学習の集いでは私と同年代の方たちと「平和とは何か」を考え意見交換をしました。皆がそれぞれの平和の概念を持っていることと、たくさんの平和の形があることを知ることができました。

戦争はとても恐ろしいものです。目を背けたくなる事実が沢山あります。そして戦争の道具として作られた原子爆弾は広島と長崎を一瞬で焼け野原にしました。核兵器は世界に存在してはいけないものです。「日本は世界で初めて原子爆弾が投下された国」ではなく、「日本は最初で最後の被爆地」にしなければいけません。そのためにはより多くの人達がこの事実を正しく学ぶことが大切です。核兵器を無くすためには日本だけではなく、世界中の人々に広島と長

崎で起こったこの悲劇を知ってもらい、平和のために何ができるのかを一緒に考える必要があります。

これは最初で最後の被爆国日本で今を生きている私たちの使命なのではないでしょうか？

「広島で学んだ平和の大切さ」

広島を訪れた際、平和記念式典にも参列することができました。平和の大切さを実感し、歴史を学び直す機会となったこの経験は、私にとって非常に貴重でした。広島で見たもの、聞いたこと、感じたことが心に深く刻まれ、私の考えや行動に影響を与えています。



特に印象的だったのは、平和記念式典の荘厳な雰囲気です。式典は、毎年8月6日に行われ、原爆の投下とその後の悲劇に思いを馳せるために、多くの人々が集まります。式典の中で行われた黙とうの時間、参加者一人ひとりが静かに過去を悼み、未来の平和を願う瞬間には、言葉にできないほどの重みを感じました。広島平和記念公園で、その瞬間を共にしたことは、私にとって特別な意味を持ちました。

また、平和記念公園や原爆ドームを訪れた際、その物理的な証拠に触れることができました。原爆ドームは、爆心地からわずか160メートルの距離で爆風を受けながらもその姿を残し、今もなお原爆の恐ろしさを伝え続けています。その建物の前に立つと、原爆によって失われた多くの命や、戦争の持つ破壊的な力を実感せざるを得ませんでした。

さらに、広島平和記念資料館を訪れると、戦争の悲劇がいかに多くの命を奪い、人々の生活を壊したのかを物語る数々の展示がありました。被爆者たちの証言や遺品、写真から、原爆がもたらした深刻な影響を改めて理解しました。その中で、特に心に残ったのは、生存者たちが語る「語り部」としての役割です。命を失った多くの仲間のために、自らの体験を語り続けている姿に、命の重さと語り継ぐことの重要性を痛感しました。

広島を訪れ、平和記念式典に参列し、数々の遺跡や資料に触れたことによって、私は戦争や核兵器が引き起こす深刻な影響を実感しました。平和を守るためには、過去の悲劇を忘れず、次世代にその重要性を伝え続けることが求められていると強く感じました。広島での経験を通じて、私たち一人ひとりが平和のために何をすべきかを考え、行動に移すことが大切だということを改めて認識しました。

これからも、この貴重な経験を忘れることなく、平和のためにできることを考え、実行していきたいと思います。広島で学んだことを生かし、戦争や核兵

器の恐ろしさを語り継ぎ、平和を守る責任を果たしていきたいと心から思っています。

「はじめて戦争と向き合った4日間」

私は戦争の話を聞いたり、戦争の資料を見たりするのが苦手でした。なぜなら当時の方々の気持ちが痛いほど伝わってきて胸が張り裂けそうになるからです。ですが今回の平和学習青少年派遣事業には「目を背けずにしっかりと向き合い、未来へ繋いでいかなければならない」という思いで参加しました。

今回の派遣事業で一番心に残った場所は袋町小学校です。袋町小学校には原爆投下後の状態が鮮明に思い描ける展示が多くありました。柱に刻まれた「患者 村上」の文字や、黒板の裏から出てきた当時の行方不明者を探す伝言板。この方々がどうなったのかと考えると、戦争の恐ろしさを訴えかけてくるかのようなようでした。いつも当たり前に行きかかっている学校や職場がある日を境に病院に変わってしまったら。そこにはこの世のものとは思えない異常な光景が広がっていたら。その中で自分も苦しみ、生と死の境をさまよっている状態だったら。そんな事になったら一体どう感じるでしょう？夢だと思い現実から逃げ出そうとしたり、未来への希望を捨ててしまうと思います。戦争で日常が奪われるという事は、人を人ではなくしてしまう出来事だと、袋町小学校が語りかけてきているように感じました。

原爆は日常と希望を奪う、この世にあってはならない恐ろしい兵器です。核兵器をなくすためには、みんなが「相手を思いやる気持ち」をもっと大切に1人1人の笑顔を守ろうとすることが大切です。それこそ平和への第一歩だと思います。被爆者の方から実際に話を聞くことのできる最後の世代として、未来の平和の為に何ができるのかという事を、学校や、周りの人と一緒に考えていきたいです。最終的にはその気持ちが世界中に伝わると良いなと思います。私のように戦争の話を聞くこと、資料を見るのが怖いという方も一度戦争と向き合ってみて欲しいです。そして、一人一人が目を背けずに向き合って、いつか平和な世界が来ることを心から祈っています。今回は貴重な4日間の経験を、ありがとうございました。



「広島で学んだ平和の大切さ」

私は平和使節団として広島を訪れ、平和について学んできました。これまでの私は戦争に関する話が好きではありませんでした。戦争は恐ろしいもので、知ることが怖いと思っていたからです。今回の広島派遣の体験から、戦後80年を生きる私達も戦争について知らなければならないと実感しました。



実際に被爆した方と出会い、話を聞いて、驚くことが二つありました。

一つ目は「被爆して亡くなった人を見ても『悲しい』と思わなかった。」という言葉です。悲しいと思えない、感情がなくなる、ということを経験したことはありません。しかし、想像することはできます。何も感じられないことほど辛いことはありません。私は沢山の感情を持てる自分を大切にしたいと思います。また、私と同じように沢山の感情を持っている相手も大切にしたいです。私と相手では考え方が違うかもしれませんが、しかし、そのような時こそ相手の気持ちを想像し、理解しようとするのが大事です。相手の立場に立つて考えることで、お互いを尊重することができるようになるのだと思います。

二つ目に私が驚いたことは「水を求めた人々が黒い水で喉を潤していた。」ということです。「水がほしい」という思いの強さを訴えかけられているように感じます。その時、その時を精一杯に生きようとする人々の姿が目には浮かびます。考えるだけで泣きたくなるような状況を、もう二度と起こしてはいけないと強く感じました。

平和記念公園の中では「平和の鐘」の見学も行いました。平和の鐘には、国境のない地図が描かれています。私は、この地図のように世界が一つになってほしいと思いました。私は、被爆した方の思いを次世代へと繋いでいけるよう、恒久平和な世界になるよう、八月六日と九日に黙とうをします。

「無知と無関心は、いじめにせよ、戦争にせよ、共犯者だ。」と被爆者の方の話にもありました。私は、今まで知ることを恐れていた戦争について学びました。日本で実際に起きた戦争を過去のこととしてはいけないと思います。私は、これからも戦争の悲惨さ、平和の尊さを知っていきたいです。

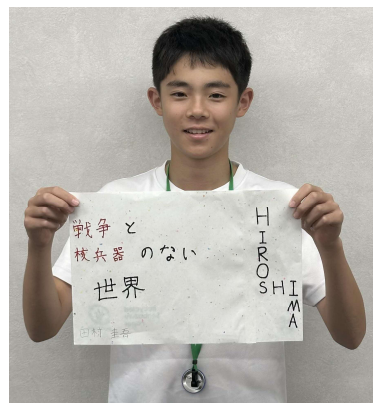
「浦安市平和学習青少年派遣事業を終えて」

僕は今回の派遣事業で色々な体験をすることができました。特に印象に残ったのは平和記念資料館の見学と、被爆者のお話を聞いたことです。

平和記念資料館の見学では、原爆についてたくさん展示を見ることができました。特に、僕より小さい子どもが「僕が火傷をしているからお母さんがかわいそうだ」というものを見て胸がとても痛くなりました。そして、原爆で死んでいった人たちも苦しかったと思いますが、火傷をして助けを求めてきた人のことを救うことができなかつた人たちも苦しかったんだと知りました。昔は、もう少しで死んでしまいそうな人に水を与えると早く死んでしまうという言い伝えがあり、水を求められても水を与えなかつたそうです。与えなかつた人たちはずっと後悔していたと思います。他にも、原爆症や後遺症の展示もされていて、ケロイドのことや十年以上たって原爆症が出たり、被爆した人の子どもに障害が出たりしていたことが分かりました。また、被爆したというだけで就職や結婚でも差別されていたという事実にも驚きました。

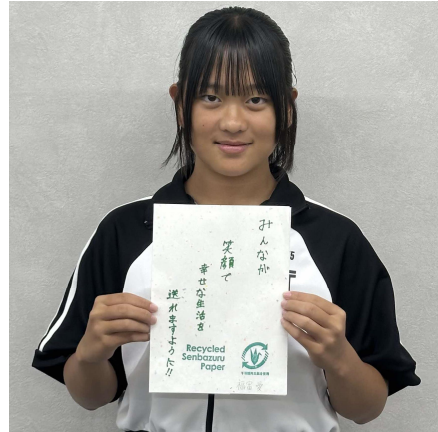
被爆した方のお話を聞いたときは、悲しい気持ちと、それ以上に驚きの方が大きかったです。火傷やガラス片が刺さつた負傷者が多すぎて、友達や家族しか助けることができず、道を埋め尽くすように倒れている人たちを、心を無にして踏みつけて進んだそうです。原爆は人々を殺し、苦しませ、心や人生を壊したんだと思います。そして、もし家族や友達と会うことができ助けようとしても、医者や医療器具が少なく応急処置しかできず、麻酔なしで体に刺さつたガラス片を抜いたそうです。「もし自分が」と考えるだけでもぞつとします。

世界にはまだ核兵器の恐ろしさを知らない人がたくさんいます。だからまずは、家族や学校など身近なところから伝えていき、世界中に広め、世界のすべての核兵器をなくすために努力していきたいです。



「被爆者の思いを未来へつなぐ」

私は浦安市の代表として広島を訪れ、平和学習に参加しました。今回の学習では、原爆ドームや原爆の子の像、平和記念資料館などを見学し、さらに被爆者の方から直接お話を聞く機会がありました。その中で、戦争や原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さを改めて強く感じました。



まず、原爆ドームを目の前にしたとき、建物の形は残っていても窓や屋根は崩れ、当時の悲惨さを強く想像させられました。戦争が人の命だけでなく街全体の姿まで変えてしまうことを実感し、言葉を失いました。

被爆者の方のお話では、原爆が落とされた直後の街の様子や、友人を一瞬で失った悲しみについて聞きました。「友達を助けたい」という言葉が特に印象に残り、原爆が人々の生活や心にどれほど深い傷を残したのかを強く感じました。

また、資料館では被爆当時の写真や遺品を見て、原爆による被害の大きさと残酷さをさらに深く学びました。普通の生活を送っていた人々の命が一瞬で奪われ、未来を失ってしまったことを思うと、とても胸が痛みました。

さらに、平和記念式典にも参列しました。式典では世界中から集まった人々が一緒に犠牲者を追悼し、平和を願っていました。静かな祈りの時間の中で、平和を守ることの大切さを肌で感じ、自分もその一員であることを強く意識しました。市の代表としてこの場に立てたことを誇りに思います。

今回の学習を通して、平和は当たり前のもではなく、多くの人の願いや努力によって守られているものだと気づきました。この経験を心に刻み、感謝の気持ちを忘れずに生きたいと思います。そして、学んだことを周りの人に伝え、平和を守り続ける一人になりたいと思います。

「広島派遣で驚いたこと」

私達は平和使節団として広島へ行き、多くの事を学びました。その過程で心に残った事、驚いた事等を、この感想文を通して皆さんにお伝えできれば幸いです。

広島に行ってまず驚いた事、それは、確かに今は栄えているけれど、予想以上に至る所に第二次世界大戦の跡が残っていた、という事です。私達が路面電車を待っている時、一人の被爆者のお爺さんが私達に、戦争や原爆の恐ろしさを、丁寧に教えてくださいました。被爆者という存在があまり身近にいないので、今まで少し遠く感じていましたが、その時、広島では彼らは身近な存在なんだと、ハッとさせられました。また、彼らはその記憶を私たち若い世代に伝えようとしている、と改めて実感し、この記憶を私達の代で潰してはならない、と強く心に刻みました。また、予想以上に多くの慰霊碑等がある事にも驚きました。



そして、広島で次に驚いた事は、そこにいる人皆が、真剣に学んでいる事です。私達は全国平和学習の集いに参加し、全国の中高生と、地元の戦時中の様子や平和について、議論を行いました。そこでは、見知らぬ人同士でも積極的に意見が交わされていて、新鮮な体験でした。また、発表はどれもわかりやすく、「学校と違う」と衝撃を受けました。私も発表しましたが、初めましての人たちばかりでも、「きちんと聞こう」という雰囲気の中だったので、緊張はありませんでした。また、原爆資料館や平和記念式典等でも、ふざけている人は誰もいなくて、驚きました。やはり、原爆の恐ろしさや平和の尊さを直接学んだ後には、誰もそれを学ぶ姿勢や、それ自身を笑う事などできないとわかりました。

「教科書以上の事を学ぶ」が今回の私の目標でしたが、予想より多くを学ぶ事ができました。今の平和がどれだけ有難いものなのか、どれだけ辛い歴史の上に築かれたものか、という事。戦争は、何の罪もない子供達の命と、未来があったはずの家族の幸せをも奪う、醜く残酷な行為なのだという事。原爆は、一瞬にして人の命を、尊厳を、幸せを焼き尽くす、絶対にこの先使っていけない恐ろしい凶器だという事。これらの今回学んだ事を、「学ぶだけ」で終わらせないために考え続け、それを実行する事が、私の役目だと思っています。皆が戦争や原爆の恐ろしさをきちんと理解していて、皆が胸を張って「今は平和

だ」と言える社会にしたいと、心の底から願っています。

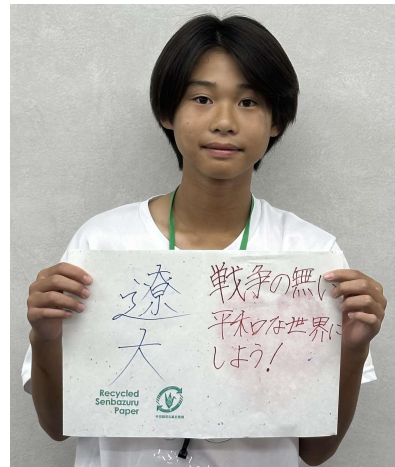
「広島で学んだ平和の大切さ」

平和学習青少年派遣に参加し、広島へ訪問しました。広島と聞くと、やっぱり一番に思い浮かぶのは原爆ドームや平和記念公園です。実際に行ってみると、テレビや教科書で見たことのある場所なのに、目の前にすると全然感じ方がちがいました。

平和記念資料館では、原爆が落とされた時の写真や被爆した人の持ち物が展示されていて、とてもショックを受けました。小さな子どもの服や焼けた弁当箱を見た時、「こんな普通の生活をしていた人たちが、一瞬で命をうばわれたんだ」と思うと胸が苦しくなりました。

原爆ドームも実際に見るとすごい迫力でした。川のそばに静かに立っているのに、強い存在感があって、「戦争を二度と起こしてはいけない」という思いが伝わってくるようでした。今にも壊れそうな建物が当時の惨状を今に伝え、多くの命が奪われた事実に、胸が痛みました。同時に、平和を願う人々の思いが、この場所に込められていることに感動しました。外国から来た観光客もたくさんいて、みんな静かに見上げていたのが印象に残っています。広島が世界中の人に平和を考える場所になっていることを感じました。

広島に行って、悲しい歴史とともに、そこから立ち上がって明るく生きている人々の力を感じました。これからも平和の大切さを忘れないで、ぼく（わたし）たちの未来を大事にしていきたいと思いました。



「派遣学習に参加して」

今回の広島での平和学習青少年派遣の学習で、私は平和の大切さについて改めて考えることができました。広島に行く前から授業で原爆について学んでいましたが、実際に現地を訪れて、自分の目で見たり、被爆体験講話を聞いたりしたことで、教科書だけでは分からなかった重みを肌で感じることができました。



平和記念資料館では、原爆で焼け焦げた洋服や、形が変わってしまったガラス瓶などが展示されていました。その場に立つと、展示物の一つ一つに当時の人々の生活や思いがあったことが伝わってきて、胸が苦しくなりました。今まで「戦争は恐ろしい」と頭では理解していたつもりでしたが、実際の遺品を目にすると、その恐ろしさが現実として迫ってきました。展示物を見ながら、当時の生活や家族のことを想像すると、言葉にならない気持ちになり、改めて命の大切さを強く考えさせられました。

また、被爆体験を語ってくださった方のお話も心に強く残りました。「あの日、普通の生活が一瞬でなくなった」という言葉を聞き、平和がどれほどもろく、そして大切なものかを改めて実感しました。つらい体験を語るのは大変なことだと思いますが、それでも私たちに伝えてくださったのは、二度と同じ過ちをくり返さないでほしいという強い願いがあるからだと感じました。その話を聞くことで、平和のありがたさや、自分たちにできることの大切さをより深く考えることができました。

平和公園では、千羽鶴をささげ、静かに手を合わせました。その時間は心が落ち着き、平和への願いを自分の中で深く考えることができました。「平和は当たり前のものではない」という思いが、より強く心に残りました。

今回の広島派遣を通して、私は「平和は一人一人の思いやりから生まれる」と考えるようになりました。身近な人を大切にし、相手のことを思いやって行動することが、戦争のない未来につながるのだと思います。広島で学んだことを心に刻み、これからも平和について考え続け、少しでも自分にできることを実行していきたいです。

「平和への誓い」

私は8月4日から7日にかけて、浦安市平和使節団として被爆地である広島市を訪問しました。今年是被爆から80年たち被爆体験者のいない世界が近づいています。なので、現地に行き実際に目で見て正確な情報を知り平和の大切さを後世にも伝えていきたいと思いこの事業に参加しました。

広島では、平和記念公園や平和記念資料館を見学し、原爆ドームや袋町小学校などの遺産も見ました。学習していくなかで強く印象に残っていることは、袋町小学校を見学したことです。袋町小学校の階段や教室の壁にはチョークで当時の様子が映し出される伝言が多くありました。壁に書かれていた言葉は化学の力によって読み取ることができたと知りました。そこには行方不明になった娘を必死に探す家族のメッセージなどが書かれていました。その伝言をみて私は、たった一回の原爆でどれほどの人を苦しませて幸せを奪ったのかを改めて理解し、原爆の怖さを思い知らされました。

そして全国平和学習の集いに参加しました。集いでは被爆体験者の方からお話を聞き、全国から集まった派遣生と原爆の被害や平和についてのグループディスカッションを行いました。話し合いでは広島以外の地域の被害について知ることができ、「平和とはなにか」について、喧嘩しないなどの身近なことから核が世界からなくなる、人々が笑顔になるなどのことも考えることができました。私にとって「戦争」や「原爆」は身近なものではないと思っていましたが、実際に広島に行き戦争や原爆の恐ろしさを深く学んだことによって戦争への考え方が大きく変わり平和の大切さを肌で実感しました。

今の世界ではまだ核を所持している国が9カ国あります。一つの国が持っている安全確保のために持つ国が出てきてしまいます。少しずつでも核を減らしていき核の数をゼロにして安心して暮らせるようになりたいです。なので、広島で学んだ戦争や原爆の恐ろしさと正確な情報を後世に伝え、戦争のない世界平和を実現させていきたいです。



「過去を語り継ぎ、今と未来の平和へ」

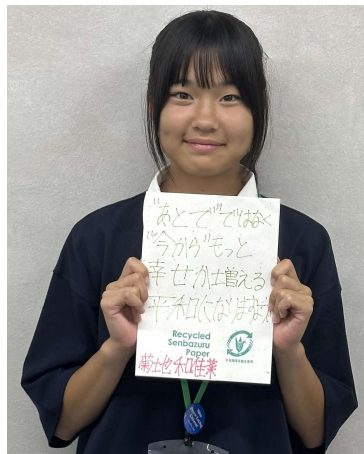
私は浦安市平和使節団として4日間広島を訪問しました。この訪問では、とても貴重な体験をしました。中でも特に心に強く残った出来事が3つありました。

1つ目は平和記念公園の見学です。平和記念公園には、慰霊碑があり、その慰霊碑の近くには平和の灯があります。この平和の灯は『地球上から核兵器がなくなるまで燃え続ける』と言われていています。私たちが見た時は、火は燃えていました。私は「早くこの火を消さなければいけない。今すぐ。」と平和への願いが強くなったと同時に、「まだこの火が消えていない。まだ地球上に核兵器があることは、被爆をされた方々に申し訳ない。」と悔しくなりました。

2つ目は平和学習の集いでの梶本淑子さんの被爆体験のお話です。梶本さんは当時中学生で被爆をしました。今の私と同じ中学生です。人の皮膚が垂れている、目の前で人が死んでいく。想像出来ないことが、もし今自分の目の前で、と思うと戦争や原爆の恐ろしさ、辛さや怖さなどを思い、様々な感情が芽生えました。梶本さんはこんなに辛い体験をしたにも関わらず、私たちにお話をしてくださいました。この貴重な記憶や貴重な機会を大事にして、今度は私たちがこの記憶を次の世代にしっかりと語り継がなければと強く決心しました。

3つ目は平和記念資料館の見学です。平和記念資料館には原爆被害にあった当時の服や三輪車などたくさんの物がありました。その中でも特に印象に残った資料は、原爆によってできた顔や体のやけどの写真と当時を再現された絵です。写真には原爆によってできたやけどが体中に広がっていて骨が見えそうなほどだったことが衝撃的でした。再現された絵には川に逃げ込む人などが描かれていて、とても生々しい絵だったことは今でも忘れられないほどです。

私はこの4日間で平和の尊さを強く感じました。当たり前で生活できている今の幸せ、この幸せをこれからも当たり前を感じるようにするには、私たちが自ら幸せを作るのです。世界中の人々が幸せでいるためには、皆で平和な世の中を作ることです。そのためには、戦争や原爆の恐ろしさや悲しさと同時に、この平和の尊さを若者に広めていきたいと思えます。



「平和の輪を広げるために」

私は8月4日から7日までの4日間、浦安市平和使節団として広島市を訪問し、「平和」についてたくさんのことを学びました。私が今回この平和学習に参加しようと思ったきっかけは、小学生の時に浦安被爆者つくしの会の方々为学校にお越しいただき、被爆体験講話や朗読劇を聞き、今まで知らなかった「原爆」の恐ろしさを教えてくださいました。そして中学生になってからも「平和」について学ぶ機会があり、「平和」についてもっと知りたいと感じ、この平和学習に参加しました。



実際に広島を訪れ、特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は平和記念公園を訪れたことです。平和記念公園では、ガイドの方による案内をしてもらいました。そこでは公園の設計者の工夫やそこに込められた想いを知ることができました。例えば、慰霊碑のアーチからは原爆ドームと平和の灯を同時に見ることができ、原爆が投下された当時の光景とあの日の悲しみから立ち上がろうとする人々の強い気持ちが一つの場面で感じ取れるようになっていました。

2つ目は平和の集いでの梶本淑子さんのお話です。梶本さんは女学校3年の14歳で爆心地から2、3km離れた場所で飛行機のプロペラを作る作業中に被爆されました。梶本さんは今の私たちと同じ年齢で被爆し、原爆投下直後は、倒壊した建物の下敷きになり、辺りは真っ暗で身動きも取れず、体も負傷しているという、私だったらとても耐えがたい状況でも、友達が生きていたことや暗闇の向こうに明かりが見えたことで希望が見え、その希望に一生懸命向かっていこうとされたそうです。そのような梶本さんの心の強さに感動し、諦めないで努力し続けることの大切さを改めて感じました。

このように今回の平和学習を通じて、より学びを深めることができた私たちだからこそ、同世代のみんなにより深く「平和」の大切さや被爆された人々の想いを伝えることができると思います。世界の平和の輪を広げるきっかけに自分になれるようこれから頑張ります。

非核平和都市宣言

真の恒久平和は人類共通の願いである。しかしながら、核軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしていることは、全人類のひとしく憂えるところである。

わが国は、世界唯一の核被爆国として、また平和憲法の本質からも、再びあの広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

私たち浦安市民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和主義の理念のもとで“緑あふれる海浜都市”づくりを進めており、その実現もまた平和なくしてはあり得ない。

私たち浦安市民は、被爆40周年の節目にあたるこの機会に、非核三原則が完全に実施されることを願いつつ、すべての核兵器保有国及び将来核兵器を所有しようとする国に対し核兵器の完全禁止と廃絶を希求し、世界の恒久平和確立のため、ここに「非核平和都市」となることを宣言する。

昭和60年3月29日

千葉県浦安市